

## アクセスの不便さを逆手に 野津田に集うゼルボラ

2020年12月13日(日)

J2リーグ第40節 FC町田ゼルビア VS 水戸ホーリーホック

町田GIONスタジアム 14:00KO 天候 晴れ 観衆2038名



↑鶴川駅前

↑工事中のバックスタンド

↑メインスタンド

### 1、ボランティア同士の送迎システム

全体集合の30分前にボランティア(以下ゼルボラ)のOさんと小田急線鶴川駅前のコンビニ駐車場前で待ち合わせして、町田GIONスタジアムに向かいます。ゼルボラでは活動エントリー時に鶴川駅と町田駅で送迎希望者は合わせてエントリーができ、当日は他に町田駅で10名くらいの方がゼルボラ同士でスタジアムに向かっているとのことでした。

町田GIONスタジアムは東京のベッドタウン・町田市にあり新宿駅から小田急線で40分弱の鶴川駅から歩けば1時間以上はかかる首都圏のJクラブで唯一アクセスが不便なスタジアムです。

### 2、9割が男性のゼルボラ

受付で検温と消毒を済ませると「12月13日」と記された名刺大のシールが渡されます。このシールをIDカードに貼れば、検温・消毒完了の目印になるということです。控室には「ご自宅で採れたゆず」の差し入れもありました。当日の活動者は28名で、9割が男性でしたが、30~50代の方の年齢構成のバランスがうまくとれている感じでした。また多くの方が顔見知りということで和気あいあいといった感じでした。

KO4時間前にゼルボラのミーティングが始まりました。クラブボランティア担当社員が当日のスケジュール説明をしていましたが、途中で何名の方が出掛けていきます。クラブの社用車で町田駅と鶴川駅に向かい、直行バス乗り場での案内・誘導をするためだそうです。ミーティングでは最終節でのイベントと帰りの送迎バスの時刻、整理券についての内容が多かったです。

### 3、ホーム入場ゲートでの活動

今日の配置は「ホーム入場ゲート」「メインゲート」「車椅子対応」「コンシェルジュ(総合案内)」「ファンツール窓口」「グッズ売店」「駅での誘導」があり、試合終了後は「復路送迎バス乗り場での誘導」「路線バスで帰宅される来場者のための公園内の道案内」をする方もいます。ゼルボラはリーダー制がなく、全員の集合時間、解散時間が一緒なのも特徴ですが、配置先は概ね固定されていて実質上のリーダーはいてインカムを持ち活動の説明や休憩時間の割り振りを行なっていました。私の配置は「ホーム入場ゲート」で選手ののぼり旗を設置すると開門まで30分以上休憩となりました。

### 4、J1仕様に向けバックスタンド増設中

休憩時間を利用して場内を歩いてみました。ゼルビーランドという広場では20張くらいのテントが並び、グッズ販売、スタジアムグルメ(ワインが人気)、ふれあいサッカーなどで開門前から賑わっていました。アウェイゲートには「水戸ホーリーホックサポーターの皆様 ようこそ野津田にお越しくございました。ゼルビアボランティアスタッフ」というボードも掲げてありました。圧巻はバックスタンドでJ1仕様に向け、現在増設中で来年春に完成予定とのことでした。

### 5、首都圏一の地元志向

KO2時間20分前に先行入場開始です。入場ゲートでは検温と手荷物検査が警備会社、消毒とQRコードバーコードリーダー読み取り、入場者数カウントがゼルボラ、サンプリングが

「まちだサポーターズ」と分担されています。3団体に分かれています。警備会社スタッフ含めて、皆さん顔見知りでうまくコミュニケーションがとれ協力しあっているのが特徴でした。

FC町田ゼルビアではゼルボラ以外にもまちだサポーターズが試合運営に携わっています。まちだサポーターズは東京国体時にできたボランティア団体で町田市開催の大相撲町田場所、Fリーグなどのスポーツイベントで活動されているそうです。また去年は「シルバー人材センター」の方も活動されていたそうです。

ホームのゴール裏ということもあり、来場者もスムーズにQR画面をかざしていました。20代30代の家族連れの割合が高く地元志向が高い印象を受けました。(2019年度のJリーグの観客アンケートによれば66%が町田市から来場、また63%がスタジアムまで30分以内で到着) 直行バスも上記の鶴川駅含め5カ所あり、来シーズンはJ2リーグで共に戦うSC相模原のホームタウンであるJR淵野辺駅からも発着しているのが特色です。

### 6、昨年との運営の違い

今回最も関心があったのはコロナ禍による、昨年との試合運営方法の違いでした。一緒に

活動したゲートの方に伺うと「当日券販売所の廃止」「紙チケットのもぎりはお客様自身」「再入場時の再入場券の配布」とのことでした。ゼルボラも有観客になってから活動再開したそうですが、昨年に比べ若干活動者は減っているようです。

KOになると、抜ける方がいました。「試合抜」で自らチケットを購入してハーフタイムと終了後に活動に戻る、「試合終了後まで」のようにエントリー時に申請すればパートタイムの活動者ができるのもゼルボラの特徴といえます。試合終了後はホーム最終節と引退選手のセレモニーが行なわれていましたが、チケットのない方は見ることもなく待機していました。セレモニー終了後に控室に戻ると、ボランティア担当者からねぎらいの言葉があり、引退セレモニーを終えたばかりの選手がわざわざ控室に来てくださり御礼の挨拶があり、記念写真を撮り18時前に解散となりました。

#### 7、アクセスの不便さを逆手に

今回最も感じたのはクラブもゼルボラの間でもアクセスの不便さを克服するための熱意でした。5カ所からも直行バスを運行するのは経費を含めて並大抵のことではないと思います。またゼルボラ同志と一緒に車に便乗して向かうのもナイターの試合では復路のバスがないための利便性以外にもコミュニケーション手段としても素晴らしいことだと感じました。よくよく考えてみると他の首都圏クラブのホームスタジアムは全て最寄り駅からの徒歩圏（20分強かかる所もありますが）でボランティアの方のアクセスについて考えたことはありませんでしたが、地方では皆さんどのようなアクセスでスタジアムに向かっているのかを考えるきっかけになりました。

#### 8、リーダー制がないゼルボラ

多くのクラブのボランティアは明確なリーダー制をとり、早く集合して備品や受付準備を行ない、リーダーミーティングで当日の活動内容が先に知ることが多いと思います。しかしゼルボラは全員の集合時間が一緒にインカムを持つ、配置や休憩時間を決めるなどの「実質上のリーダー」はいますが、会社のように組織に縛られることなく自主的に活動していると感じました。20名前後の活動人員でならこのような運営もありなのかなと思い、人数の多いクラブでも大企業のように組織化、束縛されてボランティアの自主性は奪われていないかと考えさせられるきっかけになりました。

コロナ禍ではありますが、一瞬忘れることができた師走の野津田を後にいたしました。ゼルボラの皆さんありがとうございました。